別府市所在の古墳について
～鷹塚古墳の発掘調査から～

大分県立埋蔵文化財センター
井　大　樹

1．はじめに

鷹塚についての最古の記述は豊後国岡藩の唐橋君山が記した『豊後國志』「速見郡之巻　墳墓」(注1)（一七九八～一八〇三編纂）において確認できる。その後、明治末の郷土史家であった佐藤蔵太郎は、『豊後史蹟考』「二ツ塚」の中で実は、「別府ノ太郎」「別府ノ次郎」「鷹緑丸と呼の塔」三基の古墳があり、太郎塚・次郎塚古墳と比較すると鷹塚の方が大きいと報告をしている。一九二三年（大正一二年）記載、別府市火売所在の実相寺に伝わる石垣村の旧記録には、「鷹塚」の項があり、「二ツ塚より大なり」、「土中に石櫃あり」などの記述が認められる。また、一九四〇年（昭和一五年）の『大分県史蹟伝説地詳図』「別府市ノ（二）別府市郊外」をみると、百合若大臣鷹塚(注2)の名称で登場している。

また、実相寺遺跡公園内に家形石棺が置かれているが、周辺の住民によれば、この古墳の敷地内に家形石棺の蓋が落ちていたとの言い伝えがあり、移動させたのではないかと推察される。

2．調査の経緯

鷹塚古墳については、それまで行われていた実相寺古墳群の調査(注3)の一環として、調査が進められてきた。第1次調査は平成二〇年度で墳丘測量調査(注4)に基づき、墳丘規模・墳形確定のため墳丘北側に1Tr、南側に2・3Trを設定し調査を実施した。開口部は南東部であり、3Trからは面調整を施した方形の石材が検出できたものの、当該調査の目的である墳形規模等については、測量のデータ等に基づき三〇m前後の円墳であろうという想定にとどまった。

平成二一年度にはこれにつづく、第二次調査が行われた。ここでは、墳丘南西側に4Tr、西側に5Tr、北西側に6・7Tr、1Trの拡張・設定をすることによって昨年の課題に取り組むことにした。その結果、4Trでは住宅造成のために墳丘端部が削平されていること、5・6・7・8Trより根石があり墳端を確認できることがわかった。はじめは、5・7Trで直線状に墳端が検出でき、6Trの墳端とその向きが違うことから8Trを設定したと

ころ、コーナー状に隅角を形成しているため、約一辺二七ｍほどの方墳ではないかとの結論に至った。また、時期を特定できるような高坏、坏身、坏蓋も出土した。

これまでの墳丘・墳形に関する課題は、二次調査により一定のめどが立ったため、平成二二年度からの三次調査では開口部及び羨道部の依存状況確認を目的とした調査をすることとなり、調査区は一次調査で設定した3Trを拡張し、羨道と前室の確認を行い、新たに9Trを設定した。調査の結果、羨道部は幅二・五ｍ・現存長八ｍという県内最大の羨道を持つ巨石墳であることが確認された。また、明大工業株式会社の協力を得て、スキャニングレーザーによる三次元測量も実施した。三次元測量のデータから、墳丘断面図を作成したところ、開口部より八ｍ奥の玄門から墳丘の中心部までは残り五ｍあることが判明し、推定される全長が一三ｍを超え、これもまた県内最大の石室となることが確実となった。

3．まとめ

今回、別府大学文化財研究所の調査によって、鷹塚古墳はこれまで県内最大の石室長を持つと言われていた鬼の岩屋2号墳よりも大きな石室を持つ、県下最大の巨石墳であることが判明した。また、二次調査の成果により一辺が二七ｍ程度の飛鳥時代の方墳であることも判明した。

羨道部の石材には、赤色顔料の塗布が確認され、今後装飾が発見される可能性もある。この赤色顔料も蛍光X線装置による分析から、ヒ素が含まれることが分かった。別府市には、「血の池地獄」という国の名勝が存在し、ここから採取できるベンガラにもヒ素が含まれることが知られている。この「血の池地獄」に関しては、八世紀に編纂されたとされる『豊後国風土記』の中に確認することができる。

いずれにしても今回の調査を通じて、鷹塚古墳が含まれる実相寺古墳群は、鬼の岩屋古墳群と共に、別府の歴史・大分の歴史を語るうえで欠かすことのできない歴史的所産となるのではと思う。

【注釈】

（1）「荒墓　三所。並在石垣荘石垣原。一曰別府太郎。一曰別府次郎。一曰緑丸蓋鷹名。俗説紛紛。未聞其正」と記述有

（2）当該書籍中では百若合大臣鷹塚と記載されているが、これは単純な記載ミスと考えられる。

（3）実相寺古墳群の調査は、天神畑古墳の調査に始まり太郎塚・次郎塚古墳と進んでいる。鷹塚古墳は位置的には、天神畑と太郎・次郎の間に所在する

（4）トータルステーションと電子平板を用いた変化点測量を実施した。詳細については（下村・吉田・玉川二〇〇三）を参照

【参考・引用文献】

梅原末治著　「豊後國速見郡北石垣村の石室古墳」（『考古学雑誌』第一四巻四号二一六－二二三頁）　日本考古学会　一九二四

別府市編　『別府市史』（歴史編については鳥居龍蔵編）　別府市　一九二八

十時英司編　『大分県史蹟伝説地詳図』　郷土史蹟伝説研究会　一九四〇

別府市編　『別府市誌』　別府市　一九七三

南明荘古墳調査団編　『別府市域における集落景観の編成資料－南明荘古墳調査報告－』　南明荘古墳調査団　一九七九

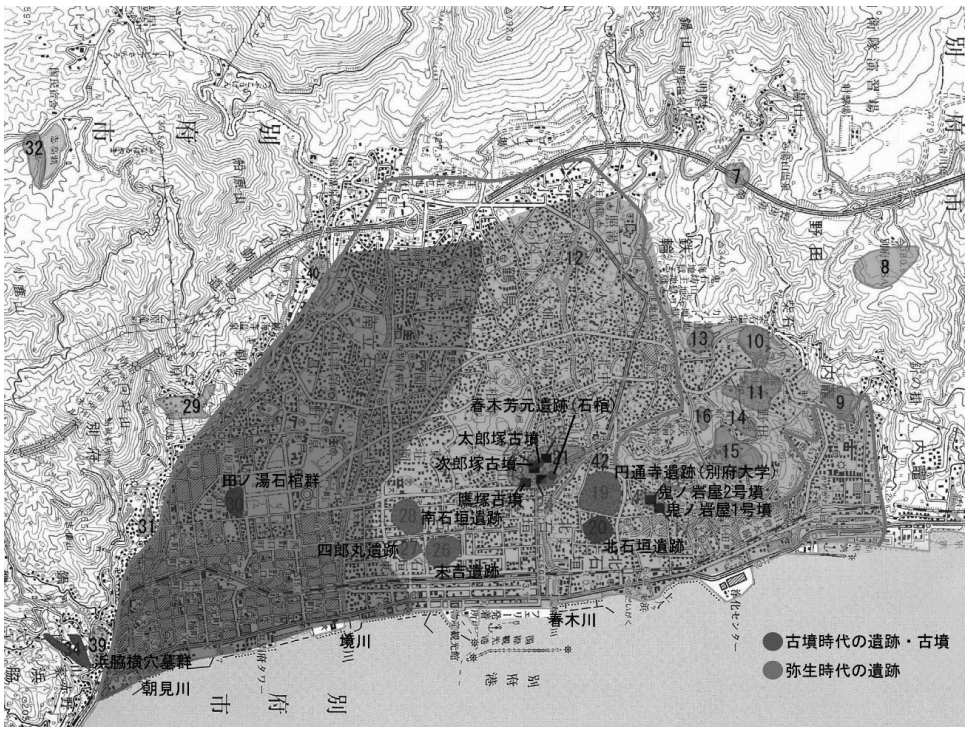
別府市編　『別府市誌』　別府市　一九八五

下村智・吉田和彦・玉川剛司　「古墳におけるデジタル測量の研究－大分県下の古墳を事例として－」（『九州考古学』第七八号　八〇－九八頁）　二〇〇三

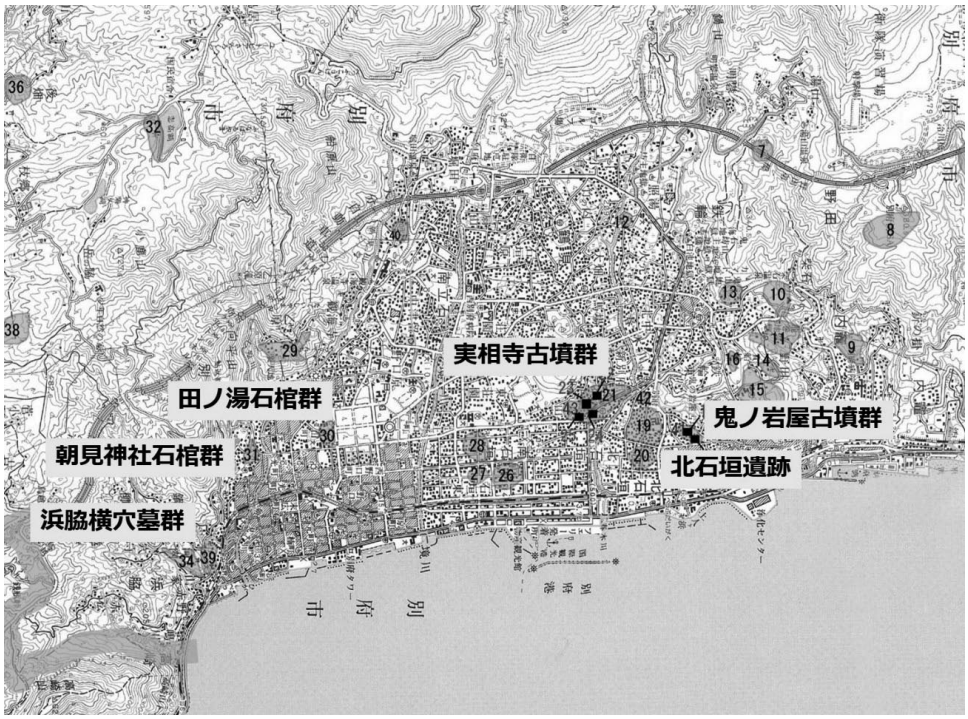
別府市編　『別府市誌』（一巻・二巻・三巻）　別府市　二〇〇三

上野淳也・玉川剛司　『別府市所在鷹塚古墳の調査－平成二二年度の調査概要－』　大分県考古学会発表資料　二〇一〇

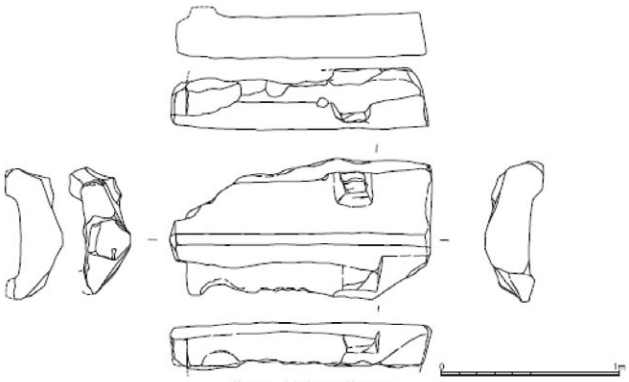
清水宗昭編　「－別府市の古墳文化－」（『べっぷの文化財』No.四二）　別府市　二〇一二



別府市の弥生時代と古墳時代の遺跡



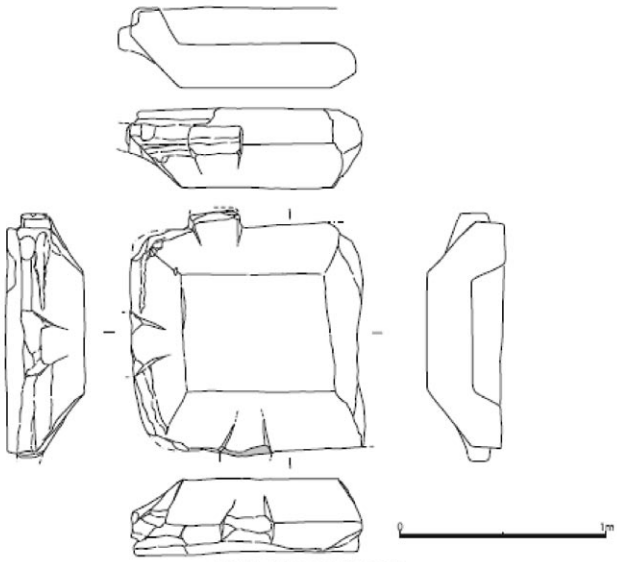
別府市の古墳時代の墓



第94図　実相寺1号石棺（1/20）

写真9　実相寺1号石棺

実相寺１号石棺実測図



第95図　実相寺2号石棺（1/20）

写真10　実相寺2号石棺

実相寺２号石棺実測図